

特45-347



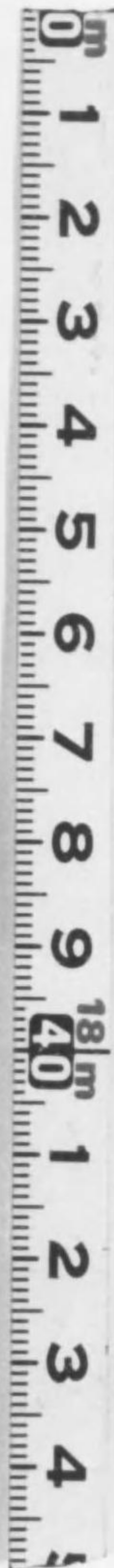
1200800203898

特45

347

農村經濟調查 明治43年11
新潟県東蒲原郡上條村

国立国会図書館



始



農村經濟調查

明治四十三年度 其十一

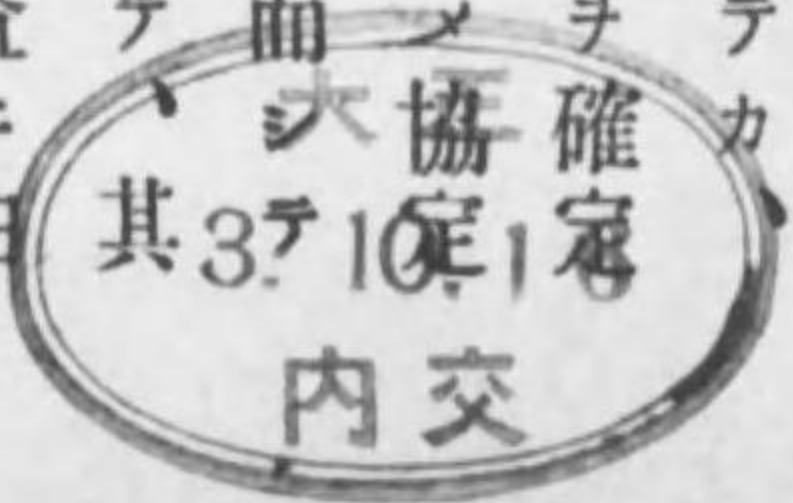
新潟縣東蒲原郡上條村

新潟縣農會



緒言

經濟界ノ趨勢ハ農村ヲシテ舊來ノ事業ヲ墨守スルヲ容サス、何等カ時勢ノ進運ニ件ヲ施設ヲ行ハサルヘカラスト雖モ、土地ト勞力トヲ基礎トスル農業ニ在リテハ其ノ改善亦地方ノ事情ヲ無視スルコト能ハサルナリ。是ニ於テカ、本會ハ明治四十三年度以來農村ノ經濟狀態ヲ調査シ、將來ノ農業方針ヲ確定シ、事業ノ緩急ヲ圖リテ實行ヲ期センコトヲ欲シ、地方ノ有志者ト豫メ協定シ、之レカ調査ヲ繼續施行シツ、アリ、本調査ハ即チ其ノ一二屬ス。而シテ其ノ始メ調査ニ着手スルヤ、元來個人統計皆無ノ事項少カラサルヲ以テ、其ノ困難名狀スヘカラサルモノアリシニ關ラズ之レカ委員ノ熱心ナル實査ニ由リテ完成シ以テ茲ニ發表スルヲ得タルナリ。



大正三年八月三十日

新潟縣農會

農村經濟調查

東蒲原郡上條村

目次

第一、沿革	………	一
第二、氣候	………	一
第三、地勢及土質	………	一
第四、土地及戶數人口	………	二
(イ) 本村ノ土地所有者	………	
(ロニ) 本籍戶數人口	………	
(ロニ) 現住戶數人口職業別	………	
第五、農地	………	三
(イ) 本村ノ農地所有者	………	
(ロ) 本村民ノ他町村ニ於テ所有スル農地	………	
(ハ) 本村民ノ所有權アル農地	………	
(ニ) 自作及小作反別	………	
(ホ) 本村ノ農地ニシテ他町村民ノ自作又ハ小作ヲ爲ス反別	………	
(ヘ) 他町村ノ農地ニシテ本村民カ自作又ハ小作ヲ爲ス反別	………	

第六、農民

(ト) 乾田並濕田反別及旱損地水害地反別	………	七
(チ) 農地所有權ノ異動	………	
(リ) 農地賣買價格ト公定地價トノ比較	………	
(イ) 農業戶數及人口	………	
(ロ) 自作及小作農戶數及人口	………	
(ハ) 耕作反別ト農戶口トノ比較	………	
(ニ) 所有地ノ大小ニ依リ區別シタル農戶數	………	
(ホ) 耕作地ノ大小ニ依リ區別シタル農戶數	………	

第七、栽

(イ) 各作物ノ作付反別及收穫	………	一〇
(ロ) 田地ノ等級別平均收穫	………	
(ハ) 小作料	………	
甲、田地一反歩ノ小作料	………	
乙、畑地一反歩ノ小作料	………	
(ニ) 地主ト小作人トノ收穫比較	………	
(ホ) 重ナル作物收支計算	………	
(一) 肥料	………	
甲、堆肥	………	
乙、堆肥舍建設ノ狀況	………	
(ト) 丙、金肥施用高及其成績	………	
山林反別及殖林反別	………	

第八、經濟……………一六

(イ) 農民一家經濟ノ狀況

甲、收入

(参考) 資產程度表

乙、支出

(イ) 本村生産額

(ロ) 本村民カ他町村ヨリ得ヘキ收入

(ハ) 貯金其他ノ利子

(ニ) 商業利益

(ホ) 報酬及給料

(ヘ) 勞働利益

(ト) 他町村ヨリ收入スヘキ諸税

(チ) 雜收入

乙、歲出

(一) 公費

(二) 本村消費額

(三) 本村民カ他町村ニ拂フヘキ支出額

丙、歲入出總額比較

(イ) 金融ノ狀況

甲、本村ノ負債

乙、本村民カ他町村民ニ對スル債權

(ニ) 蓄積ノ狀況

第九、勞力……………三三

(イ) 一日ノ勤務時間

(ロ) 農業者ノ休業日數

(ハ) 雇人

(ニ) 雇人ノ賃金

甲、日雇賃金

乙、年雇ノ給金

第十、役用家畜……………三七

第十一、副業……………三七

(イ) 家禽

(ロ) 豚

(ハ) 蠶

第十二、農業ニ關スル施設ノ狀況……………三八

第十三、結論……………三八

農村經濟調査

東蒲原郡上條村

第一、沿革

本村ハ慶應四年(明治元年)マテ小川庄上條組ト稱シ、會津藩主松平肥後守ノ領地タリ。明治維新ノ當時水原民政局ノ配下ニ屬ス。明治四年若松縣管轄トナリ、全九年福島縣ニ合シ、全十九年新潟縣ノ管轄トナル。明治二十一年町村制發布ノ結果九島、兩郷(野中、高清水ノ兩村ヲ合併セシモノ)小出(東岐、長坂、牧野武須澤入ノ合稱)拂川ノ四ヶ村ヲ合併シテ上條村ト改稱ス。明治二十二年村ノ中央タル兩郷ニ上條村役場ヲ開設シ爾來現在ノ狀態ヲナセリ。

第二、氣候

氣温ハ最寒攝氏零下十度、最高攝氏三十四度ニ上レトモ寒暖ノ差少ナシ。雨量ハ年二千耗以上ニシテ、最モ雨多キ季節ハ十月下旬ヨリ翌年二月下旬トス。但シ十二月初旬ヨリ降雪ヲ見、積雪最モ多キトキハ四尺ニ至ル。而シテ翌年三月下旬若クハ四月上旬ニ至リテ全ク雪消ユ。風ハ山岳、丘陵ニ支ヘラル、モノナルカ暴風ノ害少ナク且ツ常風ト雖モ強大ナル風ナシ。

第三、本村ノ地勢及土質

本村ハ東蒲原郡ノ如キ山岳多キ地方ニ比シテ割合ニ平地多ク、本村部落ノ大部ハコノ平原ニアリ、而シテ周

圍ハ悉ク山岳ヲ以テ圍マレ、中ニ一條ノ常浪川アリ、コノ川水多ク、流レ寬ニシテ、舟筏ノ便頗ル多シ。
 土質ハ概シテ洪積層ヨリナル腐植質粘土若クハ砂壤土ニシテ、山岳地方ハ多ノ頁岩ヨリ生成セラレタル腐植
 質粘土ナリ。
 常浪川アレトモ谷深クシテ沖積層ト稱スヘキモノ至テ僅少ナリトス。

第四 土地及戸數人口

(イ) 本村ノ土地所有者 (明治四十二年十二月末現在)

土地ノ區別	官有		村有		區有		私有	
	總別	反別	總別	反別	總別	反別	總別	反別
田	一、三三七、三〇六	二〇、二六一、六六〇	—	—	五、三三二	六八、四四〇	一、三三二、九一五	二〇、一九三、〇一〇
畑	一、〇七、二〇〇	六、〇九、一六〇	—	—	六三、〇一〇	一五、一六七〇	九、九四、〇〇〇	九、四四、四九〇
宅地	一、九、三〇一	二、一五、七四〇	—	—	六、九一七	九、一七、〇〇〇	一、六、一、三三四	二、〇、五、〇五〇
山林	二、三九、七三二	四、八八、九〇〇	—	—	五、二三、六四一	二、三三、五〇〇	一、六、二、〇、〇一八	三、六、五、四一〇
原野	二、七、〇七	三、三、三〇〇	—	—	六、七、七二	二、四、八〇〇	一、三、三、三五	二、一、五、〇〇
雜種地	二、六、六二六	—	—	—	—	—	—	—
合計	二四、〇三七、三〇一	三三、四七、六五一	—	—	一、五、二、七、八四一	一、五、七、九、九〇〇	一、八、七、三、七〇二	二、六、八、九、一一〇

備考 將來畑地山林ヲ變換シテ田地トナスベキモノ八拾町歩餘。

(ロ) 本籍戸數人口 (明治四十二年十二月末現在)

戸數	人口		計
	男	女	
一九九戸	七、三三二	七、五七二	一、四、九〇〇
備考 前年ニ比シ著シキ増減ナシ			

(ロ) 現住戸數人口職業別

第五、農地

(イ) 本村ノ農地所有者 (明治四十二年十二月末現在)

種目	専業		兼業		合計	
	戸數	人口	戸數	人口	戸數	人口
農	一二五	五六一	一六	六二六	一四一	一一八七
工	—	—	—	—	—	—
商	—	—	—	—	—	—
雜	—	—	—	—	—	—
合計	一二五	五六一	一六	六二六	一四一	一一八七
備考 本籍人口ニ對シ四十五人ノ出稼者アリ。	一六八	六八六	—	—	一六八	七五九

農地ノ區別 總反別總地價 他町村民ノ所有 本村民ノ所有

田	一、三三七、三〇六	二〇、二六二、四六〇	一、三三〇、〇〇九	一、七五五、七九〇	四二、一、二五、三二七	一八、五五、八七〇	一九、
畑	一、〇七、一〇〇	六、〇九、一〇六	六、七、〇三二	四三、八六〇	四三、九九〇、一〇八	五、六八、三〇〇	二、八
合計	二、二九四、五〇六	二六、三、五七、八〇六	一八九、一〇一	二、一三九、六五〇	八四、二、一〇五、四四五	二四、二八、一七〇	四、七

(ロ) 本村民カ他町村ニ於テ所有スル農地 (明治四十二年十二月末現在)

農地ノ區別	反別	地價	人員
田	一七四、五二六	三、三〇二、四八〇	四〇、
畑	四四、九一一	三〇六、三〇〇	二四、
合計	二一九、五〇七	三、六八九、八〇〇	六四、

(ハ) 本村民ノ所有權アル農地 (明治四十二年十二月末現在)

農地ノ區別	反別	地價	人員
田	一、二八九、八二三	二一、八三八、五五〇	二、
畑	一、〇三五、〇一九	五、九八八、六〇〇	五、
合計	二、三三四、九二二	二七、八二七、一五〇	七、

(ニ) 自作及小作反別 (明治四十二年十二月末現在)

農地ノ區別	自作	反別	小作	反別	計
田	六八九、五二四	四四〇、五〇三	一、一三〇、〇二七	一、	
畑	五八八、一二八	一一三、五〇〇	七一一、六二八	七、	
合計	一、二七七、七二二	五六四、〇〇三	一、八四一、七二五	八、	

備考 本表ノ畑反別ノ第二項農地イ表ノ畑ニ比シ著ルシク不足ナルハ地目變換ノ手續ヲ了セザル山林原野ニ變シ居ルモノアルガ故ナリ。

(ホ) 本村ノ農地ニシテ他町村民ノ自作又ハ小作ヲ爲ス反別 (明治四十二年十二月末現在)

農地ノ區別	自作	反別	小作	反別	計
田	一三三、〇〇九	四二、	八、九〇〇	二、	
畑	六七、〇三二	四三、	一、〇〇〇	一、	
合計	一八九、一〇一	八四、	九、九〇〇	三、	

(ヘ) 他町村ノ農地ニシテ本村民カ自作又ハ小作ヲ爲ス反別 (明治四十二年十二月末現在)

農地ノ區別	自作	反別	小作	反別	計
田	一三、五〇〇	六、	一、五〇〇	六、	
畑	一、	一、	一、	一、	
合計	一三、五〇〇	六、	一、五〇〇	六、	

畑	1,806	2	1	6	1,806	2
合計	1,516	8	1,500	6	1,606	14

(チ) 乾田並濕田反別及旱損地水害地反別 (明治四十三年調査)

畑	1,137,306	100,000	1,007,306	50,000	80,000	1,000,000	100,000
備考	1,057,100				10,000		
作付反別	乾田	濕田	旱損地	水害地	將	來	
備考	濕田ノ乾田ニ於ケル增收ハ一割以上アララン又乾田ニ付テハ施肥ノ効果アリ故ニ乾田ト爲スヲ希望ス						

(リ) 農地所有權ノ異動 (明治四十二年)

農地ノ區別	他町村へ所有權移轉	自村内ノ移轉
畑	1	2
田	1	3
合計	2	5
備考	所有權ノ移轉ハ其年ノ如何ニ因リ一定ナラサルモ本年ニアリテハ其地目ヲ換タルモノアリ家督相續ノ結果移轉セルモノアリ偶々中流以下ニ於テ賣却スルモノアリ要スルニ土地ノ異動ハ貧困者ノ多キニ因ルモ殆ント他町村ニ移動スルモノナシト云フモ可ナリ	

(ヌ) 農地賣買價格ト公定地價トノ比較 (明治四十二年)

農地ノ區別	上		中		下	
	一反歩	公定地價割	一反歩	公定地價割	一反歩	公定地價割
畑	150,000	25,000	80,000	22,000	40,000	13,000
田	80,000	16,180	4,900	50,000	11,560	4,310
合計	230,000	41,180	84,900	72,560	80,000	17,310
備考	田畑ノ需用増加ハ益々賣買價格ヲ騰貴セシムルニ至レリ。					

第六、農 民

(イ) 農業戶數及人口 (明治四十二年十二月末現在)

農業戶數	人		從業者		非從業者	
	男	女	男	女	男	女
農業	254	598	323	344	233	263
兼業	26	32	22	6	18	20
合計	280	630	345	350	251	283
備考	現件戶數ニ依リ調査ス。					

(ロ) 自作及小作農戶數 (明治四十二年十二月末現在)

農家ノ區別		耕作反別	農戶數	從業者	
自作農	五三,〇〇〇	五五戶	一四一人	一三九人	二八〇人
自作兼小作農	四七,〇〇〇	四六戶	一四一人	二六人	二七〇人
小作農	一三,〇〇七	三〇戶	五八人	五五人	一一三〇人
合計	一,一〇,〇七	一四二戶	三三三	三三〇	六七三

備考 耕作反別ハ田ノミニ付キ調査ス。

(ハ) 耕作反別ト農戶口トノ比較 (明治四十二年十二月末現在)

耕作地ノ區別	本村民ノ耕作反別	農戶數	從業人員	一戶平均反別	一人平均反別
田	一,一〇〇,〇七	一四二	六七三	八,〇〇〇餘	一,六〇〇餘
畑	七二,〇六八	一四二	六七三	五,〇〇〇餘	一,〇〇〇餘
合計	一,八四二,〇七五	一四二	一,三〇〇餘	一三,〇〇〇餘	二,六〇〇餘

(ニ) 所有地ノ大小ニ依リ (他町村ノ所有地ヲ含ム) 區別シタル農戶數 (明治四十二年十二月末現在)

種別	本村ノ農地所有戶數	他町村内ノ農地所有戶數	所有地ニ依リ區別シタル農戶數
田、皆無ノモノ	三〇戶	一	三〇戶
五反歩未満	三九	一八戶	三〇

種別	本村ノ農地所有戶數	他町村内ノ農地所有戶數	所有地ニ依リ區別シタル農戶數
五反歩以上	三七	一七	四〇
一町歩以上	二〇	一	二六
二町歩以上	一〇	一	一〇
三町歩以上	五	一	五
計	一四一	二二	一四一

(ホ) 耕作地ノ大小ニ依リ (他町村ノ農地ヲ含ム) 區別シタル農戶數 (明治四十二年十二月末現在)

種別	本村ノ農地所有戶數	他町村ノ農地所有戶數	耕作地全部ノ大小ニ依リ區別シタル農戶數
田、五反歩未満	四五戶	五	四五戶
五反歩以上	七〇	一	七〇
一町歩以上	二四	一	二四

烟、五反歩未滿
 計 二町歩以上
 二町歩以上
 一町歩以上
 五反歩以上
 一町歩以上
 二町歩以上

一四一
 二六
 六八
 四三
 一四一

六 | | | 二六 |

一四一
 二六
 六二
 四九
 一四一

第七、裁

培

(イ) 各作物ノ作付反別及收穫

(明治四十二年)

種	類	作付反別	收穫	一反歩平均收穫
種	米	九五二反七二八	一、四七〇 _反 六八〇	一、五四二
種	米	一七六、三〇九	二七七、〇八〇	一、五七一
種	麥	六五、九一〇	二八、三〇〇	四二〇 _反 餘
種	豆	二〇七、〇二五	一〇四、五七〇	五〇五 _反 餘
種	豆	六九、五一〇	三六、二二〇	五二〇 _反 餘
種	陸稻			
種	大陸麥			
種	大豆			
種	小豆			
種	菜			

胡 茄 蘿
 瓜 子 葡
 備考 大根ハ大凶作ナリシタメ收穫少ナカリシ。
 (ロ) 田地ノ等級別平均收穫
 六五、七〇〇
 一、二〇〇
 一、五〇〇
 二七、五九〇_反〇〇〇
 一〇二、〇〇〇
 二二三、〇〇〇
 四二〇_反〇〇〇
 八五、〇〇〇
 一四八_反〇〇〇_餘

田地ノ等級
 極上
 上
 中
 下
 最下
 一反歩平均收穫
 二、四〇〇
 二、〇〇〇
 一、六〇〇
 一、〇〇〇
 六〇〇
 見込反別
 四五_反〇〇〇
 一二五、〇〇〇
 四四〇、〇〇〇
 四五〇、〇〇〇
 一七五、〇〇〇
 (明治四十二年)

土地ノ等級
 極上
 上
 中
 甲、田地一反歩ノ小作料
 (ハ) 小作料
 石九五〇
 九〇〇
 八〇〇
 見込反別
 四五_反〇〇〇
 一二五、〇〇〇
 四四〇、〇〇〇

最下
下
乙、畑地一反歩小作料
三〇〇、五〇〇

土地ノ等級
小作料
三〇〇、七〇〇
二五〇、七〇〇
一五〇、七〇〇

備考 本表ノ小作料ハ玄米ヲ用ユ。

(ニ) 地主ト小作人トノ收穫比較

土地ノ等級
一 反歩收穫
地主ノ收穫
小作人ノ收穫
最下 中 上 極
下 上
六〇〇、三〇〇
一、〇〇〇、五〇〇
一、六〇〇、八〇〇
二、〇〇〇、九〇〇
二、四〇〇、九五〇

(ホ) 重ナル作物收支計算

收穫ニ對スル小作人所得ノ割合

六〇、四%
五五、%
五〇、%
五〇、%
五〇、%

見込反別

一、〇〇〇、〇〇〇
三〇〇、〇〇〇
二七、〇〇〇

四五〇、〇〇〇
一七五、〇〇〇

(一) 米作一反歩收支計算

(明治四十二年)

種別	收穫	價格
米	一石九〇〇	二二、三七五〇
屑米	一〇〇	七〇〇
稿米	八〇	二、〇〇〇
合計		二六、四五〇

種別	收穫	價格
米	一石九〇〇	二二、三七五〇
屑米	一〇〇	七〇〇
稿米	八〇	二、〇〇〇
合計		二六、四五〇

(乙) 支出

金額
種籾代一升八錢五厘七升
撰種鹽代七錢
廐肥五百貫目代五圓
水肥五十錢

七、〇〇〇
五、五〇〇
男 十人一日四十錢十日
女 十人一日三十錢三圓

金額
種籾代一升八錢五厘七升
撰種鹽代七錢
廐肥五百貫目代五圓
水肥五十錢

七、〇〇〇
五、五〇〇

小作料	1,000	鐵鑪新調修理其他購入代	8,750	反平均七斗 一圓二十五錢
農具費	1,880		1,000	
公租	3,000		3,000	
協議費	16,350	差引 10,105	23,215	
寄附金				
合計				差引 3,350

備考 本表ハ本村中等田ニ付キ調査シタルモノナリ。

(へ) 肥料
甲、堆肥

原料ノ種類	一反歩用量	全上ニ要スル原料ノ數量	原料代價	製造費	一ケ年使用總量
麻糞肥	100,000	50	1,150	—	600
稻草	400,000	—	11,000	1,100	500
雜草	100,000	—	—	—	—
土	400,000	—	11,500	1,900	110,000
計					

備考 山野ニ生スル雜草ヲ採集シ肥土ト厩肥トヲ混シ堆積肥ヲ製ス野草ハ年々減少ノ傾向アリ。
乙、堆肥舍建設ノ狀況
(明治四十二年十二月現在)

農家總戸數 完 全 稍々 完全 不完全又ハ未建設 切返シ實行戸數

一四一戸 二 五〇 八九
備考 堆肥舍ノ利益ヲ知ルト雖トモ切返シヲ爲スノ考少ナシ一ハ農業ニ關スル智識ノ少ナキト多年ノ習慣改良ヲナスノ手數ナルヲ思フテ空シク放置スルニヨル。

丙、金肥施用ノ成績 (明治四十二年)

(一) 稻作

肥料名稱	一反歩用量	全上價格	全上價格	一反歩收穫	普通收穫トノ比較	使用方法概略
過磷酸肥料	5,000	八五〇	十貫目一七〇〇	11,100	一分五厘	移植ノ際補助肥ヲ使用ス
大豆粕	3,000	八〇〇	一枚1,600	11,100	一分五厘	全上

備考 過磷酸石灰大豆粕ノ二種トス數量ノ本村ニ入ルモノ豆粕百枚燐酸二十俵トス買入先ハ津川町施用作物ハ稻、蕎麥、大根トス。

(ト) 山林

樹種	反林年度	八十年乃至五年	百十年乃至三年	二十年乃至三年	五十年以下
松	七〇,〇〇〇				
杉	九〇,〇〇〇				
雜木	一,八八五,八三三				
其他	五〇,〇〇〇				

全反別 一五三,000 110,500 一,八四八,六〇五 一五〇,〇〇〇
 備考 山林反別ノ第一頁、私有林反別ト符合セサルハ各人ノ所有反別ニ増歩アルト原野畑地ニ植林セラレタルモノアリ實際上増加シタルモノナリ。

第八、經濟

(イ) 農民一家經濟ノ狀況

(明治四十二年)

種別	大地主		地主ニシテ自ラ所有地ヲ耕作スルモノ		全ク土地ヲ有セサル小作人	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格
一、農產物						
一 米	二、八〇〇	一六〇,〇〇〇	一、八八〇	二三五,〇〇〇	一一,一〇〇	一三六,七五〇
二 糯米	三、二〇〇	四六,四〇〇	二、四〇〇	三三,六〇〇	一、八〇〇	二六,〇〇〇
三 芋	三、〇〇〇	一五,〇〇〇				
四 大豆	一、一〇〇	九,六〇〇	二、五〇〇	二五,〇〇〇	一、一〇〇	一,六〇〇
五 小豆	二、二五〇	二,七五〇	一、〇〇〇	一一,〇〇〇	〇、〇五〇	五,〇〇〇
六 大豆	一、〇〇〇	一〇,〇〇〇	一、〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	五,〇〇〇
七 夏薯	二、〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	五,〇〇〇	一三,〇〇〇	六,〇〇〇

種別	大地主		地主ニシテ自ラ所有地ヲ耕作スルモノ		全ク土地ヲ有セサル小作人	
	數量	價格	數量	價格	數量	價格
八 其他						
計		一五,〇〇〇		一六,三〇〇		二,五〇〇
二、副業及副產物		二六八,七五〇		三四〇,九〇〇		一九〇,四〇〇
一 薪木						九〇,〇〇〇
二 楮	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇		六〇,〇〇〇		
三 桑	二五〇,〇〇〇	三五,〇〇〇		三,〇〇〇		
四 柿	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇		一〇,〇〇〇	十	三,〇〇〇
五 其他		七〇,〇〇〇				
三、肥料		一四〇,〇〇〇		七三,〇〇〇		九三,〇〇〇
一 廐肥	八,〇〇〇,〇〇〇	八〇,〇〇〇	一,一〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	五,〇〇〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇
二 人糞	六〇〇,〇〇〇	六〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	二五,〇〇〇
三 灰類	一〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇	五〇,〇〇〇	一五,〇〇〇	一〇,〇〇〇	六,〇〇〇
四、小作料及地代		一四三,〇〇〇		一〇五,〇〇〇		六一,〇〇〇
一 小作料	一八,四九元	二三〇,三六一				
二 貸地料	四,五〇〇	一五,〇〇〇				
小計		二四五,三六三				

種別	大 地 主		地主ニシテ自ラ所有地ヲ耕作スルモノ		全ク土地ヲ有セサル小作人	
	金額	摘要	金額	摘要	金額	摘要
五、労働賃金						
一、秣刈取		三六、〇〇〇		三六、〇〇〇		四〇、〇〇〇
二、日駄賃				一〇、〇〇〇		一〇、五〇〇
三、出稼						四〇、〇〇〇
四、其他雑業						五〇、〇〇〇
五、小計		三六、〇〇〇		一〇、〇〇〇		一〇、〇〇〇
六、利子				六六、〇〇〇		一五〇、五〇〇
一、公債利子						
二、貸金利子	一、一〇〇、〇〇〇		二五〇、〇〇〇			
七、雑収入						
一、小計		二一〇、〇〇〇		六二、五〇〇		
合 計		一五〇、〇〇〇		三〇、〇〇〇		五〇、〇〇〇
備考	肥料収入ノ部ニ於テ廐肥價格安價ナルハ廐肥製造ニ要スル原料秣ニ於テ四十圓ヲ費シタルニヨリ安價ナリ即チ差額ハ秣以外ノ飼料ヲ見積リタリ					
乙、支出						
一、公費						
一、地租	五七、八八五		九、四三五			
二、所得稅	二、二〇〇		五、〇〇〇			
三、縣稅	一一、一〇〇		一、四一〇		月一五〇	
四、町村費	六九、〇〇〇		一〇、八〇〇		一、四〇〇	
五、協議費	五、〇〇〇		三、〇〇〇		五〇〇	
二、種苗代	一〇、〇〇〇		一〇、〇〇〇		五、〇〇〇	稻其他
三、肥料代	一四三、〇〇〇		一四一、〇〇〇		八二、〇〇〇	廐肥、人糞尿、灰
四、農具費						
一、農具購入費	一〇、〇〇〇		七、〇〇〇		四、〇〇〇	
二、農具修繕費	五、〇〇〇		三、〇〇〇		一、〇〇〇	
五、雇人給料						
一、年雇	四〇、〇〇〇	男一人				
二、日雇	五五、〇〇〇	女一人 二百五日	一五、〇〇〇			
六、小作料及地代						
一、田小作料						八〇、〇〇〇 八反歩ニ對シ
二、畑小作料						三、七五〇 二反五畝歩
七、家畜飼料						
一、馬	四七、〇〇〇	馬一頭飼育	四七、〇〇〇			
八、生計費						

種別	大 地 主		地主ニシテ自ラ所有地ヲ耕作スルモノ		全ク土地ヲ有セサル小作人	
	金額	摘要	金額	摘要	金額	摘要
一、公費						
一、地租	五七、八八五		九、四三五			
二、所得稅	二、二〇〇		五、〇〇〇			
三、縣稅	一一、一〇〇		一、四一〇		月一五〇	
四、町村費	六九、〇〇〇		一〇、八〇〇		一、四〇〇	
五、協議費	五、〇〇〇		三、〇〇〇		五〇〇	
二、種苗代	一〇、〇〇〇		一〇、〇〇〇		五、〇〇〇	稻其他
三、肥料代	一四三、〇〇〇		一四一、〇〇〇		八二、〇〇〇	廐肥、人糞尿、灰
四、農具費						
一、農具購入費	一〇、〇〇〇		七、〇〇〇		四、〇〇〇	
二、農具修繕費	五、〇〇〇		三、〇〇〇		一、〇〇〇	
五、雇人給料						
一、年雇	四〇、〇〇〇	男一人				
二、日雇	五五、〇〇〇	女一人 二百五日	一五、〇〇〇			
六、小作料及地代						
一、田小作料						八〇、〇〇〇 八反歩ニ對シ
二、畑小作料						三、七五〇 二反五畝歩
七、家畜飼料						
一、馬	四七、〇〇〇	馬一頭飼育	四七、〇〇〇			
八、生計費						

一	飯米	一五、九〇〇	糯米 二石二斗	二九、〇〇〇	一三、二五〇	九石七斗
二	蔬菜	三〇、〇〇〇	粳米 十石	一八〇、〇〇〇	一八、八五〇	一石三斗
三	魚類	三二、〇〇〇	大根 茄子 其他	一五、〇〇〇	七、〇〇〇	
四	味噌、醬油	二、五〇〇	醬油 一斗	一三、〇〇〇	五、六〇〇	
五	砂糖	三、四〇〇	味噌 八十貫目	三七、〇〇〇	二、八〇〇	醬油 三升五合
六	茶、菓子、果物	一、七〇〇	十斤	八〇〇		味噌 六十貫目
七	酒	八、五〇〇	酒 一石二斗	一三、〇〇〇	五、〇〇〇	
八	煙草	五、六〇〇	酒 一石二斗	六〇、〇〇〇	二、〇〇〇	
九	麥類	三、七五〇	五百匁	二、二〇〇	一〇、八〇〇	
一〇	食用雜品	七、三〇〇	大豆、小豆、卵肉	九、〇〇〇	一〇、八〇〇	
一一	被服費	八〇、〇〇〇	反物二十五反	七、〇〇〇	二、五五〇	
一二	住宅費	三、五〇〇	家屋	二〇、〇〇〇	二、五〇〇	
一三	常用雜品購入費	二、五〇〇	家具	一〇、〇〇〇	一〇、三〇〇	
一四	食鹽	八、五〇〇	家什器	五、〇〇〇	三、〇〇〇	
九、負債	利子			八、五〇〇	二、五〇〇	
一〇、雜支	出				利子 三、五〇〇	
一	寄付金	一五、〇〇〇		五、〇〇〇	三、〇〇〇	

二 兒童教育費 三〇、〇〇〇
 三 藥費 一五、〇〇〇
 四 理髮洗場 三、〇〇〇
 五 薪炭油代 四三、八〇〇
 七 雜費 五三、〇〇〇
 合計 一、一〇五、二五五
 收支差引 益七、八八六
 備考 大地主及自作者ノ年々生ズル欠損ハ自己所有山林ヲ伐採シコレヲ補填スルモノナリ而シテ現在ノ狀況ヲ持續スルトキハ破産シ了スルガ如クナレトモ又一方伐採後地ニ造林シタルモノ成長スルニヨリテコレガ災厄ヲ免レウルニ至ル計算ナリトス

(參考) 資 金 程 度 表

種 別	大 地 主	地主ニシテ自ラ所有地ヲ耕作スルモノ	全ク土地ヲ有セサル小作人
一、所有反別	七四、八一二	一一、九〇七	
田	二五、五〇四	一四、八〇二	
畑	一、三〇〇	五、二二五	
宅地	五二二、四一一	六一、八二八	
山林			
二、耕作反別			
自作反別	一一〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	
畑			

一、農		二、林		三、水	
種別	生産額	種別	生産額	種別	生産額
粳米	四七、四〇〇	木材	三五〇	小計	三、八八五
糯米	一、五七二	薪炭	一、三六、七五〇	薪炭	一、三六、七五〇
大豆	二八、三〇〇				
小豆	二七、〇五五				
胡豆	六九、五二〇				
茄子	五、七〇〇				
瓜	四、二〇〇				
薯	二七、五九〇				
馬鈴	三、六〇〇				
蕎麥	一、三九、五〇〇				
柿	二、四、九〇〇				
楮	二、四、二五〇				
小計	一、四、六、九〇〇				
總計	一、四、六、九〇〇				

種別	甲、歲入		乙、歲出		六、飼養馬頭數
	本村	反步收穫	本村	反步收穫	
小作反別畑	一、五〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	二
三、所有金品	一、五〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	一
四、家族	一、五〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	一
五、年雇	一、五〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	一
六、飼養馬頭數	一、五〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	二、五〇〇、〇〇〇	一

(明治四十二年)

生産額總計	紙	繭	生	六、雜品類	小計	灰	人糞	五、肥料	小計	雞卵	雞	馬	四、家禽家畜類	小計	ハ	粘
生産額總計	紙	繭	生	六、雜品類	小計	灰	人糞	五、肥料	小計	雞卵	雞	馬	四、家禽家畜類	小計	ハ	粘
生産額總計	紙	繭	生	六、雜品類	小計	灰	人糞	五、肥料	小計	雞卵	雞	馬	四、家禽家畜類	小計	ハ	粘
生産額總計	紙	繭	生	六、雜品類	小計	灰	人糞	五、肥料	小計	雞卵	雞	馬	四、家禽家畜類	小計	ハ	粘
生産額總計	紙	繭	生	六、雜品類	小計	灰	人糞	五、肥料	小計	雞卵	雞	馬	四、家禽家畜類	小計	ハ	粘
生産額總計	紙	繭	生	六、雜品類	小計	灰	人糞	五、肥料	小計	雞卵	雞	馬	四、家禽家畜類	小計	ハ	粘
生産額總計	紙	繭	生	六、雜品類	小計	灰	人糞	五、肥料	小計	雞卵	雞	馬	四、家禽家畜類	小計	ハ	粘
生産額總計	紙	繭	生	六、雜品類	小計	灰	人糞	五、肥料	小計	雞卵	雞	馬	四、家禽家畜類	小計	ハ	粘
生産額總計	紙	繭	生	六、雜品類	小計	灰	人糞	五、肥料	小計	雞卵	雞	馬	四、家禽家畜類	小計	ハ	粘
生産額總計	紙	繭	生	六、雜品類	小計	灰	人糞	五、肥料	小計	雞卵	雞	馬	四、家禽家畜類	小計	ハ	粘

(ろ) 本村民カ他町村ヨリ得ヘキ收入

種別	小計	種別	小計
田	一六一、二二六	種別	小計
畑	六五、二一六	種別	小計
宅地	七、八〇六	種別	小計
小計	二三四、三〇八	種別	小計

(は) 貯金其他ノ利子

種別	金額	種別	金額
郵便貯金	三九五、〇〇〇	種別	金額
公債	七六二、〇〇〇	種別	金額
登記貸付	三、八八四、〇〇〇	種別	金額
信用貸付	一、二、六〇四、五五〇	種別	金額
恩給扶助料	一七、六四五、五五〇	種別	金額
小計	一七、六四五、五五〇	種別	金額

(に) 商業利益

種別	戸數	種別	戸數
種別	戸數	種別	戸數
種別	戸數	種別	戸數
種別	戸數	種別	戸數
種別	戸數	種別	戸數
種別	戸數	種別	戸數
種別	戸數	種別	戸數
種別	戸數	種別	戸數
種別	戸數	種別	戸數
種別	戸數	種別	戸數

二五

六〇、〇〇〇

種別	乙、歲出	金額
地租	(一) 公費	一、八八四、六四〇
本村ノ土地ニ對スル地租總額		一、七一四、二〇五
內 本村民ノ負擔額		四八七、四三〇
所得稅		八二、三九〇
營業稅		一、三八八、一三〇
縣稅		二、二二二、〇九五
町稅		二一四、五一〇
本村民カ他町村ヘ納入スル租		六、一〇八、七六〇
合計		

一、食	本村消費額	消費戶數	一ヶ年消費額	單價	價額
麵	八、八八九	一九九	一、七五、一九〇	四二五	二、八八九、七七五
米	一、三六三	一九九	二七、二九〇	二四五	四、〇六九、〇五〇
麥	一、四一	一九九	二八、三〇〇	九〇	二五四、七〇〇
合計					

蕎麥	大豆	小豆	蘿蔔	茄子	胡瓜	馬鈴薯	醬油	酒	茶	魚類	煙草	菓	牛	雞	雞	柿	小計	衣服
一、〇六一	一、二三八	一、一八	一、四二〇〇〇	一、一七〇	一、一七〇	一、九三〇	一、四九六〇	一、四九四〇	二、一七〇	八、〇五〇	六、九一〇	一、五〇〇	一、八三〇	一、六〇〇	一、七〇〇	一、三二	一、一九九	一、一九九
二、四、二五〇	二、七、五六〇	三、七、三七〇	二、八、三四〇〇〇	三、三、六〇〇	三、三、一九〇	一、八四、九〇〇	三、二〇、四〇〇	二、九、七四、八〇〇	四、三、二、六〇〇	一、六〇〇、八〇〇	一、〇、三五、九七〇	二、九八、五〇〇	五、五〇〇	六、二〇〇	一、二八、八〇〇	四、五、〇〇〇	三、四、九、〇〇〇	三、四、九、〇〇〇
七〇	八〇	一〇	五〇	一〇〇	五〇	五〇	四、一、五〇	四、一、五〇	四、一、五〇	一、六〇〇、八〇〇	一、〇、三五、九七〇	二、九八、五〇〇	五、五〇〇	六、二〇〇	一、二八、八〇〇	四、五、〇〇〇	三、四、九、〇〇〇	二九
八六九、七五〇	二二〇、六四〇	四一、〇七〇	一、四一七、〇〇〇	三二、六〇〇	一六、五九五	九二四、〇五〇	三二〇、四〇〇	二、九七四、八〇〇	四、三、二、六〇〇	一、六〇〇、八〇〇	一、〇、三五、九七〇	二、九八、五〇〇	五、五〇〇	六、二〇〇	一、二八、八〇〇	四、五、〇〇〇	三、四、九、〇〇〇	二九

二、衣服器具住居費

五、 雜 水	五、 雜 小	雜 寄 醫 兒 通	四、 家 小	左 大	三、 勞 小	二、 負 債 利 子	
支 出 額 總 計	利 支 費 出	費 金 費 費 費 費	政 信 教 育 費	官 工	小 計 費	登 記 借 入 信 用 借 入	
			一 戶 消 費	一 〇〇	九 八〇 八 員	元 金	
						利 子	
						一 九、 四 七、 五	
八、 三 五、 二、 二 七 五	五 〇、 〇 〇 〇	五 〇、 〇 〇 〇	二 八、 四 四、 五 〇 〇	八 七、 四、 五 〇 〇	一、 〇 九、 四、 一 〇 〇	一、 〇 〇、 二、 二 〇 〇	六、 二、 〇、 二、 三 〇 〇

一、 小 作 料 及 地 代	烟 田	二、 雜 品 類	三、 雜 品 類	四、 肥 料	薪 炭	家 具 屋	家 屋
反 別	反 別						
一、 八 〇 〇	一、 五 〇 〇						
		一 九 九	一 九 九	一 九 九	一 九 九	一 九 九	一 九 九
		六 〇、 九、 六 〇 〇	一、 一 〇、 四 〇 〇	二、 一、 八、 三、 七 〇 〇	四、 六、 六、 三 〇 〇	八、 五、 六、 七 〇 〇	七、 六、 七、 五、 〇 〇 〇
一、 六、 七、 七、 五	二、 七、 〇、 〇	六、 二、 〇、 九、 六、 〇、 〇	一、 一、 〇、 四、 〇、 〇	二、 一、 八、 三、 七、 〇、 〇	四、 六、 六、 三、 〇、 〇	八、 五、 六、 七、 〇、 〇	七、 六、 七、 五、 〇、 〇、 〇

(三)

本村民カ他町村ニ拂フヘキ支出額

丙、歳入出總額比較

科	本村	本村	合
目	生産	收入	計
額	額	額	額
目	目	目	目
(い)	歳入		
額	額	額	額
六四、三三三	一三、一二七	七七、四五一	七三、七三〇
七〇	九六八	七三八	

(ろ) 歳出

科	公	本村	本村	合
目	費	消費	支出	計
額	額	額	額	額
目	目	目	目	目
(は)	金融ノ状況			
六、一〇八	六二、八九九	八、九〇二	七七、九一〇	四、九五五
七六〇	九〇〇	二七五	九三五	一九七

(は) 金融ノ状況

區別	甲、本村民ノ負債	借入件數	借入金額	利子歩合	貸借期間

(明治四十二年十二月末現在)

登記借入	五、二八〇、〇〇〇	年一割五分	一ヶ年乃至三ヶ年
信用借入	九、〇〇〇、〇〇〇	年一割五分至三割	全上
合計	一五、八七〇、〇〇〇	平均一割五分	

區別	乙、本村民カ他町村民ニ對スル債權	貸付件數	貸付金額	利子歩合	貸付期間

(に) 蓄積ノ状況

(明治四十二年十二月末現在)

組合又ハ申合セ共同	個人
總額	總額
四八、七〇〇	八二、〇〇〇
四八、七〇〇	八二、〇〇〇
四八、七〇〇	八二、〇〇〇
員	員
四	八
員	員
四	八

九、勞力

計	本村内ヨリ他町				計	本村内ニ				區別	(ハ) 雇人		
	村ニ雇ハル、者	本村内ヨリ他町	計	本村内ニ		雇ハル、モノ	本村内ニ	計	本村内ニ				
春期 至自 六四月	冬期 至自 三一月	秋期 至自 十二二月	夏期 至自 九七月	春期 至自 六四月	冬期 至自 三一月	秋期 至自 十二二月	夏期 至自 九七月	春期 至自 六四月	男	女	計	摘	要
八〇	一五〇	五〇〇	六九〇	六二〇	一	一〇〇	一〇〇	五〇〇	五〇〇	二二〇	一、一〇〇	田打及插秧	
二、一〇〇	五〇〇	一、四〇〇	二、一〇〇	一、一〇〇	二、四〇〇	五〇〇	七五〇	六〇〇	七〇〇	二、一〇〇	七、一〇〇	除 草	
二九〇	一八〇	七〇〇	九〇〇	七四〇	田打及插秧	除 草	除 草	除 草	除 草	除 草	除 草	除 草	除 草
田打中耕插秧	男ハ伐木運材業 女ハ稻刈及米ノ調製	男ハ裁縫 女ハ裁縫	男ハ伐木運材業 女ハ稻刈及米ノ調製	男ハ伐木運材業 女ハ稻刈及米ノ調製	男ハ伐木運材業 女ハ稻刈及米ノ調製	男ハ伐木運材業 女ハ稻刈及米ノ調製	男ハ伐木運材業 女ハ稻刈及米ノ調製	男ハ伐木運材業 女ハ稻刈及米ノ調製	男ハ伐木運材業 女ハ稻刈及米ノ調製	男ハ伐木運材業 女ハ稻刈及米ノ調製	男ハ伐木運材業 女ハ稻刈及米ノ調製	男ハ伐木運材業 女ハ稻刈及米ノ調製	男ハ伐木運材業 女ハ稻刈及米ノ調製

(明治四十二年)

冬季 至自 三一月	秋季 至自 十二二月	夏季 至自 九七月	春季 至自 六四月	季 節	(イ) 一日ノ勤務時間	(ロ) 農業者ノ休業日
一五	四	一五	二三	數	自前六時 至后七時 十一時間	自前八時 至后四時 七時間
				摘	午前六時ヨリ午後七時マテ此内小憩二時間、中食二時間休	自前六時 至后六時 九時間
				要	小休一時間、中食後午睡休息二時間	自前七時 至后五時 九時間
					小休一時間、中食後一時間休	自前六時 至后六時 九時間
					小休中食一時間休	自前七時 至后五時 九時間
						自前八時 至后四時 七時間

他町村ヨリ本村

ニ雇入ル、者

計

冬期	秋期	夏期
至自	至自	至自
三月	十二月	七月

100	200	200
100	200	200
100	200	200

除草、秣刈
稻刈

(二) 雇人ノ賃金

甲、日雇賃金

季節

重ナル業務

男一人 女一人

備

考

春期自四月

農 業

田打中耕ハ上ノ如ク插秧ハ更ニ五錢

ツ、ヲ増ス

夏期自七月

全

400

300

秋期自十月

全

400

300

冬期自三月

全

400

300

乙、年雇男女ノ給金

區別

人員 一ケ年ノ給金

摘

要

最高

男女

35,000

勉強ニヨリ單衣、綿入其他ノ雜品ヲ給ス

普通

男女

30,000

上

最低

男女

25,000

上

第十、役用家畜

役用家畜

頭數

價格

使用年

一ケ年間飼料價格

農用一ケ年間ノ使用日數

馬

二六頭

七、七五〇〇〇

一五

四七、〇〇〇

五〇

五〇

第十一、副業

(イ) 家 禽

羽數

一ケ年ノ産卵數

同上價格

肉用羽數

同上價格

備

考

鶏

四六

一六、〇〇〇

五、一〇〇、〇〇〇

三八

(口) 蠶

飼育蟻量	桑ノ數量	同上價格	收 繭 高	同上價格	備 考
二三	八、〇〇〇	八〇〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	桑ハ自家生産九分區有地 ヨリ一分採取ス

第十二、農業ニ關スル施設ノ狀況

一、農事改良並ニ農家副業獎勵、農業資金融通ノ目的ヲ以テ本村ハ左記ノ施設ヲナシ居レリ。
 イ、立毛品評會、農業者ヲシテ稻作栽培法ノ改善ヲナサシメンカタメニ本年度ヨリ立毛品評會ヲ開催シ當業者ヲ鼓舞獎勵セリ。
 ロ、販賣信用組合ヲ組織シ本村生産ノ抄紙ヲ共同販賣シ並ニ抄紙原料購入資金ヲ融通シコレカ便宜ヲ計リタリ。又抄紙器具ノ改良ヲ計リシタメ本村抄紙ノ聲價ヲ高メ産額ヲ増加セリ、尙將來コレカ改良發展ニ努ムル處アラントス。

第十三、

第一章 豫 論

其一 土地及戸口

一、土 地

本村ニ於ケル總反別ハ二千四百三町七反歩餘、地價三萬三千四百七十七圓餘ニシテ、内山林二千三百三十二町歩餘、田百二十三町五反歩餘、畑百五町七反歩餘、其他宅地原野雜種地ニシテ、内私有ニ屬スルモノハ田百二十三町一反歩餘、畑九十九町四反歩、山林千六百二十町六反歩、宅地十六町二反歩餘、原野十三町八反歩餘ニシテ、其他ハ區有ニ屬ス。而シテ山林原野中將來田ニ開墾シ得ヘキ見込反別ハ八十町歩餘畑ニ開墾シ得ヘキモノ五十町歩ヲ下ラス。

一、戸 口

本村ニ於ケル本籍戸口百九十九戸、千四百九十人ニシテ現在四十五人ノ出稼人アルノミ。

其二 耕 地

一、所有者ノ關係

田反別百二十三町三畝歩餘、畑百五町七反二畝歩餘ノ内、區有ニ屬スルモノ田五反三畝餘歩、畑六町三反餘歩ニシテ、他町村民ノ所有田十二町二反餘歩、畑六町七反餘歩アリト雖、本村民ニシテ他町村ニ田十七町四反五畝歩餘、畑四町四反九畝餘歩ヲ所有スルヲ以テ、差引大差ナク是等ノ關係ハ頗ル良好ナル状態ニアリト謂フヘシ、而シテ之レカ分配ノ狀況ヲ見ルニ
 田皆無ノモノ三十戸、五反歩未滿三十九戸ニシテ、農戸數ノ四割八分弱ニ當ル、畑ニ於テハ皆無ノモノ三十戸、五反歩未滿五十二戸合セテ五割六分強ニ當リ、田畑三町歩以上ノモノハ僅カニ三戸ニ過キサレヲ見レハ耕地所有ノ分配ハ亦稍々良好ナリト謂ハサルヘカラス、而シテ耕地異動ハ田畑合セテ四町四反歩ニシテ村内ニ止リ其多クハ家督相續ニヨル異動ナリトス。

一、耕作ノ關係

耕作ノ關係ヲ見ルニ田五反歩未滿ヲ耕作スルモノ四十五戸ニシテ總農戶數ノ三割四分強ニ當リ、五反歩以上一町歩未滿ノモノ七十戸ニシテ約五割ヲ占ム、畑ニ於テモ亦同一ノ割合ナリ、今一戸平均田八反歩、畑五反歩ニ推シテ其耕作狀況ヲ觀ルニ頗ル良好ナルヲ認ムヘク又自作小作ノ關係ハ小作農ハ其二割ニシテ耕作反別ハ僅カニ全耕地ノ一割強ニ過キス、其五割ハ自作農ナルハ本村ノ爲メ喜フヘキ状態ニ在リト謂フヘシ。

要スルニ本村ニ於テハ耕地ノ分配、耕作ノ關係ハ其ニ良好ナル状態ニ在リ、而シテ本村ノ如キ食料ニ不足ヲ告ケツ、アルノ現下ニ在リテハ耕地ノ價格ハ漸次騰貴スヘキハ當然ナリト雖、社會ノ趨勢ハ土地兼併ヲ促進シ小農ハ產ヲ失フテ他ニ轉スルノ傾向アリ、本村ノ有力者思フ茲ニ致シ此良好ナル状態ヲ保持スルニ努ムヘキナリ。

其三 生産

本村ニ於ケル生産ノ重ナルモノハ米ノ一千七百石、二萬二千餘圓ヲ首トシ、大小豆ノ百四十石、千二百圓、蕎麥百二十石、八百六十圓、馬鈴薯百八十石、九百二十四圓、蔬菜二萬七千貫、一千三百圓、木材千五百圓、木炭一萬圓、薪七千圓、藁千二百圓、紙ノ一千圓等ナリトス。

- 第一 米 作
- 第二 薪 炭 (殖林)
- 第三 養 蠶
- 第四 抄 紙

等ナリトス而シテ此等ハ何レモ其緩急ヲ圖リ着々之レガ改良増殖ニ關スル方法ヲ計畫實行スヘシ。

其四 經濟

一、勞 力

本村ニ於ケル本籍戶數百九十九戸、人口一千四百九十九人ニシテ現住百九十九戸、千九百四十三人ナリ、内農業百四十一戸、千八百八十七人、農業従業者六百七十三人、耕作反別一人當リ二反六畝歩ナリ、而シテ各耕作ノ農地ハ散在シ經營上不便ナルノミナラス區劃過少ニ失シ且ツ濕田多キヲ以テ畜力ノ應用ニ乏シク從ツテ勞力ヲ要スルコト大ナリト雖、而カモ未タ勞力ニ餘裕ナキニアラス、殊ニ冬季節ハ積雪ノ關係上無爲ニ徒消スルノ日多キヲ以テ、勞力ノ分配ト利用ノ點ニ甚大ノ注意ヲ拂ハサルヘカラス、況ンヤ近時一般ノ風潮ハ勤勞ヲ厭ヒ勞働力ノ減少シタル感アルニ於テオヤ。

一、一家ノ經濟

標準調査ニヨル一家ノ經濟ヲ見ルニ本村ニ於テハ所謂大地主ト稱スヘキモノナシ、田七町四反歩、畑二町五反歩、山林五十二町二反歩ヲ所有シ、田畑各一町歩ヲ耕作スルモノニシテ、家族六人雇人二人農馬二頭ヲ飼養スル家ニ在リテハ年収入一千二百餘圓、支出一千百餘圓ニシテ差引九十七圓ノ剩餘アリ。

田一町一反歩、畑一町四反歩、山林六町一反歩、貸金公債五百餘圓ヲ所有シ、農馬一頭ヲ飼養シ家族八人ノ内五人ノ勞働者アル自作農ニ至リテハ收支差引八十七圓不足スルノ現象ヲ示セルハ決シテ看過スヘカラサル事項ナリトス、本村ノ如キハ自作農ノ極メテ良好ナル状態ニ在リト思ハル、ニ不拘却ツテ斯ル結果ヲ表ハスハ蓋シ公課ノ多キト交際費ノ關係ニヨル處多キニアラサルナキカ。

全ク土地ヲ所有セス農馬一頭ヲ飼養シ、田八反歩、畑二反五畝歩ヲ耕作シ、負債百五十圓アル家族五人ノ小作農ニ至リテハ六十餘圓ノ剩餘ヲ見ルハ小作料ノ低キト家族力凡テ勞働者タルニ基クモノナラン。

要スルニ本村ニ於テ最モ多數ヲ占メ且ツ其中堅タルヘキ自作農ノ收支相償サル悲境ニアルハ大ニ注意スヘキ點ナリトス。

一、貸借關係

本村ニ於ケル貸借ノ狀況ヲ見ルニ負債ハ登記借入五千二百八十圓、信用借入九千三十圓ニシテ、債權ハ登記貸付三千八百四十四圓、信用貸付一萬二千二百四圓、差引本村民ノ有スル債權ハ六百圓ナリト雖、各人悉ク債權者ニアラスシテ二三富有者ノ債權ニ屬スル多キモノ、如シ、而シテ利率ハ平均年一割五歩ニシテ期限ハ一年乃至二年ノモノ多數ナリ。

一、村通計ノ收支關係

本村ノ歳入合計七萬六千九百三十九圓餘、歳出七萬七千九百十圓餘ナルヲ以テ、差引不足高九百七十八圓餘ノ歳入不足ナリトス、而シテ本村ニ於ケル收入ノ最モ大ナルハ米ノ千七百三十八石餘二萬二千二百八十四圓餘ナリト雖、而カモ米ノ消費額ハ二千二十二石二萬五千九百五十八圓ナルカ故ニ、三百餘石三千六百七十餘圓ノ不足ヲ生スルナリ、其不足ハ山林ノ收入二萬餘圓アルヲ以テ之レヲ償フテ餘リアリ、米ニ次ク消費ノ大ナルハ被服費、酒類ナリトス、薪炭、厩肥、人屎尿ノ如キモ消費大ナリト雖、是レ等ハ凡テ自家生産ナリ、要スルニ生産増加ニ對スル支出ハ惜ムニ足ラズト雖、冗費ニ對シテハ自カラ誠メ所謂無用ノ費ナカラシメ、入ルヲ謀ツテ出ツルヲ節制スルコトニ注意シ以テ本村收支ノ狀況ヲ順境ナラシメンコトヲ期スヘキナリ。

第二章 結論

其一 生産

一、米作

米作ハ本村生産物ノ最タルモノニシテ、本村經濟ノ消長ハ盡シ米作ニ在リト謂フヲ得ヘキ重要ノ位置ヲ占ムト雖、未タ其ノ生産額カ其消費額ヲ償フニ足ラザルハ一考ヲ要スヘシ、自足經濟時代ニアラサル今日ト雖、猶ホ農村ノ如キ自村ノ食料ハ自村ニ於テ生産スルニアラサレハ安固ナル位置ヲ保ツ能ハサルヘシ、而シテ之レガ改良增收ヲ計ルノ途多クアルヘク

第一堆肥製造奨励、本村ニ於ケル米收穫ハ一反歩僅カニ一石五斗ニ過キス、今一反歩二石ノ收穫ヲ得ハ四百五十石ヲ得ヘク、消費不足額三百餘石ヲ償フテ猶ホ百五十石ノ餘裕ヲ生スヘシ、而シテ堆肥製造ヲ盛ニシ且ツ本村ニ金肥ノ施用極メテ少ナキヲ以テ之レカ施用ヲ増加セハ只此一事以テ二割ノ增收期シ難キニアラス、而モ本村ノ如キハ至ル處山野雜草ヲ得ルニ容易ニ、家畜ノ飼養亦少ナカラサル處ニアリテハ堆肥製造ニ極メテ好適スルヲ見ルヘシ、然ルニ目下堆肥舍ノ建設少ナキハ甚タ遺憾トスル處ナリ村農會ハ宣シク奨励金ヲ交付シ之レカ建設ヲ奨励スルト同時ニ講習會ヲ開設シ、之レカ製造ノ普及ヲ計ルヘキナリ他面當業者ニアリテハ左記規約ノ組合ヲ設ケ建設ヲ期スルヲ要ス。

堆肥舍建設 賴母子組合規約準則

第一章 組合ノ目的及ヒ組織

- 第一條 本組合ヲ賴母子組合ト稱シ堆肥舍建設ノ資金ヲ積立テ堆肥舍ノ完成ヲ期スルヲ目的トス
- 第二條 本組合ハ農事改良ニ熱心ナル同志者二十名ヲ以テ組織ス
- 第三條 組合員ノ掛金ハ一ヶ月金一圓トシ二十ヶ月間毎月集メタル金額ハ抽籤ヲ以テ之ヲ組合員ニ預ケ渡スモノトス
- 第四條 當籤ハ一回一人ツ、トシ當籤者ハ四ヶ月以内ニ自家ノ耕作反別ニ相當スル堆肥舍ヲ建設スルモ

ノトス

但組合員ハ當籤者ノ建設ニ當リテハ一日タケ勞力ヲ以テ手傳ヲナスコト

第五條 當籤者ニテ預リタル金額ハ堆肥舍建設ニ消費スルノ外使用スルヲ許サス

第六條 期限内ニ肥料舍ヲ建設スルコト能ハサル事故ヲ生シタルトキハ其事由ヲ申出テ組合ノ許可ヲ受

クルモノトス

第七條 肥料舍ノ建築ヲ終リタルトキハ組合會ニ出席シテ一同ニ報告スル義務アルモノトス

第八條 會合ノ期日ハ毎月十五日ト定ム郡合上期日ヲ變更スルトキハ期日十日前幹事ヨリ組合員ニ通知

スルモノトス

第九條 會合當日ハ正午十二時迄ニ出會シテ午後二時抽籤ヲナスコト

但シ出會シ難キ者ハ掛金ヲ幹事手元ヘ届クルコト

第十條 當籤後ノ掛金毎月一人金一圓九錢宛トシ左記一覽ノ通り未當籤者ニ割戻スモノトス

但シ一人當リ錢位以下ハ割戻ヲ行ハス組合經費ニ當ツルモノトス

第二章 役員

第十一條 本組合ハ一切ノ事務ヲ整理スル爲メ組合員中左ノ役員ヲ置キ組合員ノ互選トス

但シ無給トシ任期ハ組合解散マテトス

組 長 一 名
幹 事 三 名

第十二條 組合長ハ總テ組合ノ事務ヲ指揮シ幹事ヲ監督ス

第十三條 幹事ハ組合長ノ指揮ヲ受ケ諸般ノ事務ヲ整理スルモノトス

第三章 金錢收支

第十四條 當籤者ハ左記様式ノ預リ證書ヲ作り二人以上ノ保護人連署ニテ本會ヘ差入レ金員ノ引渡ヲ乞

フモノトス

但シ本證書ハ組合解散ノ節返戻スルモノトス

第十五條 組合ニ金錢收支簿預リ金臺帳ヲ備置キ組合長之ヲ監理スルモノトス

第十六條 次會々場ハ集會ノ際豫メ定メ置クモノトス

左記様式

印 紙

預 リ 證 書

一金貳拾圓也

右金額今般私當籤ニ付御引渡相成正ニ預リ候處確實也然ル上ハ本組合規約ニ基キ每會金壹圓九錢ツ、
相違ナク出金可致ハ勿論本組合規約ヲ堅ク相守可申候萬一本掛金相滞リ候節ハ保護人ニ於テ引受組
合ヘ聊モ迷惑相掛申間敷候爲後日預リ證仍テ如件

年 月 日

預リ人 何 之 某
保證人 何 之 某
保證人 何 之 某

堆肥舍建設頼母子組合長

何 某 殿

第二 耕地整理、耕地整理ヲ行ヒ灌排水ノ便、運搬道路ノ改造等ヲ行ヒ農業經營ヲ完全ナラシムルコト極メテ肝要ナリトス而シテ本縣ニハ土地改良獎勵規程ノ設ケアリテ之レガ施行ニ對シテハ測量設計ヲ補助シ且ツ獎勵金ヲ交付シ以テ該事業ノ獎勵ヲナシツ、アリ故ニ耕地整理ヲ斷行シテ土地改良ヲ計ルヨシトス、耕地整理ヲ行フ能ハサル濕田ニ對シテハ簡易ナル暗渠排水ヲ施シ耕地ノ状態ヲ改善スルコト亦肝要ナリ、斯クシテ牛馬耕ヲ普及セシメ努メテ勞力ノ節減ヲ計ラハ生産ノ増加ハ期シテ待ツヘキナリ。

第三 開墾、耕地ヲ改善シ、灌排水ノ設備ヲ完フシ、富力器械力ノ應用ニヨリテ勞力ヲ節約スルト同時ニ深耕ヲ行ヒ施肥ヲシテ適宜増量シ、栽培管理ト種類ノ撰擇ト相俟ツテ生産増殖ヲ計ルヘシ斯クシテ始メテ本村ノ食料問題ハ安固トナリ餘裕アルニ至ラハ更ニ前掲ノ如ク將來開墾ノ望アル山林、原野二十七町歩ニ對シ漸次開墾スヘキナリ。

二、植 林

本村ニ於ケル經濟ハ食物ノタメニ均衡ヲ破ルヲ以テ之レカ缺陷ヲ填補スルモノハ山林ノ收入アルノミ、而カモ山林ノ經營ハ最モ至難ノ事業ニ屬シ、少ナクモ二十年三十年ノ後ニアラサレハ收益ヲ見ル能ハサルガ故ニ、動モスレハ亂伐ノ弊ニ陥リ荒廢ヲ來スノ虞ナシトセス、然リト雖モ、山林ノ經營ハ本村ニ採リテハ所謂百年ノ大計ナレハ、前項述ブルカ如ク米作ニ依テ年々ノ生計ヲ營ムノ方針ヲ建ツルヲ得ハ山林ハ本村ノ富源トナリ本村ノ經濟ハ茲ニ全ク強固ナルニ至ルヘキナリ。

本村ニ於ケル山林ハ一戸平均十町歩ニ達シ豐富ナリト謂フヘシ、然リト雖モ、前述ノ如ク現況ニ委ヌルトキハ亂伐ノ弊ニ陥ル虞ナキニアラサルカ故ニ左記方法ニヨリ之レカ經營ノ途ヲ講スヘシ。

第一 私有林ハ既ニ殖林シタルモノハ伐期ヲ誤ラス適當ナル輪伐方法ヲ設クルコト、伐採シタルトキハ其收入ノ幾分ハ必ス造林費ニ充ツルコト、且ツ未殖地ハ其所有ノ廣狹ニヨリ年々幾分宛ノ殖林ヲナシ適當ナル施業方法ヲ設クルコト、而シテ組合ヲ設ケ申合セ規約ニ基キ殖林ヲナスカ如キ亦一方法タルヲ失ハ

ス、猶ホ本村ノ殖林地ニハ往々雜木中ニ僅カノ杉木アルカ如キ個所アリ極メテ不整列ナルヲ以テ之ヲ整理スルコト又必要ナリトス。

第二 公有林ノ經營ハ村又ハ部落基本財産トシテ最モ適當ナル方法タルヲ以テ將來村又ハ部落ノ經濟ハ主トシテ山林ノ收入ニ俟ツノ大計ヲ確立スルコト極メテ緊要ナリ、而シテ本村ニ於ケル區有林ハ五百十二町三反歩餘アルヲ以テ其一部若クハ全部ヲ村有ニ移シ、村有林トシテ經營スルコトハ將來本村ノ安固ヲ計ル上ニ於テ重要條件ノ一タルヲ失ハス。

既ニ本縣ニ於テモ部落有林統一ノ必要ヲ認メ之レカ獎勵ヲナシツ、アリ而シテ其施業方設計ヲ作製シ便宜ヲ與フルト同時ニ公有林野造林補助規程ヲ設ケ其造林費ノ幾分ヲ補助シツ、アルカ故ニ多クノ區有林ヲ有スル本村ノ如キハ其一部例令ハ各一戸當五反歩位ヲ提供シ村有財産トシテ適當ナル施業方案ノ下ニ之レカ經營ヲナスコトハ目下ノ急務タルヘシ。

第三 樹種ハ地形、地質等ニ應シ異ナリト雖本村ノ地形、地質ハ杉ニ適シ、且ツ杉ハ最モ利用廣大ナルヲ以テ主トシテ杉樹ノ殖林ヲナシ、杉ニ適セサル個所ハ檜又ハ松ノ如キヲ選フモ可ナラン、亦場合ニヨリテハ栗ノ中林一部分竹林ヲ設ケ竹細工ノ材料ヲ得ルモ一方法タルヘシ。

薪炭材トシテハ檜樹ノ天然更新法ヲ採用スヘキナリ。

第四 村當局者、村農會ニ於テ殖林ニ對スル指導誘掖スルハ勿論優良樹苗ノ供給ニツキ斡旋スルコト肝要ナリ。

第五 製炭ハ其方法ニ益々改善ヲ加ヘ製品ノ統一ヲ計リ表裝ニ注意シ販賣ニ就テハ共同一致遺漏ナキヲ期スルコト。

三、養 蠶

本村ニ於ケル養蠶ハ猶ホ幼稚ニシテ飼育蠶量百二十三匁收繭高三十石價格千二百圓ニシテ農家一戸蠶量平

均八分ニ過キス、然ルニ耕地田從業者一人平均一反六畝歩、畑一反歩ニシテ今假リニ田畑一反歩平均五十分人ト見做スモ一ヶ年ノ約四分ノ一日數ニ過キス、本村ノ如キ山林業ニ從事スルト冬季積雪ノ間長キ地方ニ在リテハ割合ニ米作ニ一時ニ勞力ヲ要スルモノアリト雖猶ホ勞力ニ過剩アリト謂ハサルヘカラス、故ニ此剩レル勞力ノ一部ヲ養蠶ニ注クコト肝要ナリ、而カモ米作ノ關係勞力分配上ヨリ秋蠶ニ重キヲ置キ、特ニ秋蠶専用桑園ノ開設ヲナシ、一戸平均三匁ノ蠶量ヲ飼育スルニ至ルコト敢テ難カラサルナリ、況ンヤ養蠶ハ老幼婦女子ニヨリ營マムヲ得ルニ於テオヤ、然リト雖、是レ主トシテ勞力關係ノ見地ヨリ立論シタルモノニシテ先決問題トシテ之ニ伴フ桑園ノ改置ニ努メサルヘカラス、是レ總テ畑地利用ノ一方法タリ、而シテ村農會又ハ養蠶同業組合等ニ於テ桑苗ノ配付若クハ優良ナル苗木ノ購入ヲ斡旋シ栽植セシムルコト緊要ナリ。

四、果樹栽培

本村ニハ果樹ノ栽培ニ適スル土地尠カラスト雖、梨、苹果、葡萄ノ如キ栽培ニ手數ヲ要スルノミナラス、特別ナル技術ヲ要スルヲ以テ初メテノ栽培ハ困難ナレハ技術手數ヲ要スルコト少ナキ種類柿、栗ノ如キモノヲ撰フコト肝要ナリ、而シテ柿ハ果樹園トシテ栽培スルヨリモ宅地ノ一部若クハ畑地ノ一部ニ散在的ニ栽植スルヲ可トスヘク、從來ノ柿樹ハ漸次優良品種ニ更新スヘク、新タニ栽植スル品種ハ身不知、蜂屋ノ如キ澁柿ヲ主トシテ御所ノ如キ甘柿モ多少栽培スルモ可ナラン。

本村ノ如キ山林多キ地方ニ在リテハ山林利用ノ一方法トシテ栗ノ中林トナシ一面果實ヲ採收スルコト有望ナリ、況ンヤ交通ノ便開ケ運搬容易ノ今日ニ於テ一物産トシテ他ヘ輸出ニ適スルニ於テオヤ。

五、製紙

本村ニ於テハ勞力ニ過剩アルコト前項陳フル處ノ如シ、之レヲ利用スルコト極メテ肝要ナリ、特ニ冬季積雪ノ候ニ於テハ經濟上ヨリ見ルモ將タ風敷上ヨリ見ルモ等閑視スヘキ問題ニアラス。

從來製紙ハ本村冬季間副業ノ有利ナル一ナリト雖、其價格一千圓ニ過キス、今一面ニ於テハ原料タル楮、三椏ノ殖栽ヲ奨励スルト同時ニ其製造ニ至リテモ一段ノ改良ヲ要ス、本縣ノ如キ冬季晴天少ナキ土地ニアリテハ製紙ノ如キ乾燥ヲ必要トスルモノニアリテハ從來ノ如ク天然乾燥ヲ採ルハ時代後レニシテ今日ノ如キ器械力應用ノ時代ニ在リテハ宜シク之レカ利用ヲ奨メ、組合ヲ設ケ、乾燥器械ヲ購入シ、組合員ヲシテ之ヲ使用セシムルカ、又ハ低利資金ヲ貸付ケ之ヲ購入セシメ生産費ノ節約ヲナスト共ニ其品質ノ改良統一ヲ計リ又ハ共同販賣ノ方法ヲ採ルヘキナリ。

以上擧ケタル各項ハ其大概ヲ示シタルニ過キス且ツカヲ致スヘキ重要ナルモノヲ擧ケタルノミ。要スルニ米作ノ收穫ニヨリテ一村ノ食料ヲ充タスニ足リ養蠶其他ノ副業的収入ニヨリテ公課其他ヲ償フニ至ラハ漸次殖林ハ蓄積トナリ本村經濟ノ基礎全ク確立スルニ至ルヘキナリ。

其二 經濟

本村ニ於ケル收支状態ハ前掲ノ如ク歳入不足ヲ生スルノミナラス本村ノ如キ大地主モナク小作農モ少ナキ自作農大部分ヲ占ムル處ニ於テ自作農ノ歳入不足ノ状態ニ在ルハ極メテ考慮スヘキ問題ナリ、前述セル生産ニ對スル改善增收ヲ計ルト同時ニ左記經濟上ノ施設ニヨリテ資力ノ充實資金運用ノ計ヲナサ、ルヘカラス。

一、産業組合ノ活動

農村ノ現況ハ何モ各種産業組合設立ノ必要アルモ、就中中産以下ノ農家多數ヲ占ムル本村ニ在リテハ、生計ニ追ハレ、資力乏シク、金融圓滑ヲ缺キ、農事改良上常ニ遺憾アルノミナラス、金利ハ年一割五分乃至二割ノ高率ニアル現況ナルヲ以テ、此等多數ノ農民ニ對シテ低利資金ノ活用ヲ得セシムルト同時ニ貯蓄ノ便ヲ與フルハ極メテ必要ナリ、本村既ニ之レカ必要ヲ認メ信用販賣組合ヲ設ケ金融ノ便ト生産抄紙ノ共同販賣ヲナシツ、アリ、今四十三年度末ニ於ケル狀況ヲ擧クテハ組合員四十四人、出資口數八十四、出資總

額四百二十圓、拂込濟出資額四百十六圓、準備金及積立金四十九圓、貯金現在高百四十五圓、貸付金五百七十九圓、販賣高千二十圓、剩餘金十一錢ニシテ、漸次良好ニ向ヒツ、アリト雖、其組合員ハ全戸數ノ四分ノ一ニ過キサルノミナラス、拂込額モ五百圓ニ充タス、又貯金高百四十五圓ト云フカ如キ小額ニアル狀況ナルヲ以テ猶ホ一層理事ノ奮勵ト組合員ノ活動ヲ望マサルヲ得サルナリ。

且ツ本村ノ如キ製炭者カ從來ノ舊慣上間屋又ハ仲買ノタメニ利益ヲ壟斷セラル、弊アル地方ニ於テハ抄紙ノ外木炭ヲモ取扱フコトハ痛切ニ其必要ヲ感スルナリ。

猶ホ本村ノ如キ都會ヲ去ル不便ノ地ニ在リテハ信用販賣組合ノ外、更ラニ購買組合ヲモ兼營スルヲ要ス、サスレハ肥料其他日用品ヲ購買スルニ當リ品質良好ナル物品ヲ廉價ニ得ラル、便利アルノミナラス信用販賣組合ト有無相通シ極メテ圓滑ニ共通の利益ヲ享有スルニ至ルヘキナリ。



大正三年八月廿五日印刷
大正三年八月三十日發行

編輯者 新潟縣農會

代表者 眞柳辰亮

印刷者 高橋ルイ

印刷所 高橋活版所

新潟縣新潟市學校町通
二番町六十三番戸
新潟市東堀前通九番町
新潟市東堀前通九番町



終